



こんにちは

岸本のり子です

発行 日本共産党
大津湖西地区委員会
連絡先 日本共産党大津市会議員
岸本のり子
大津市和邇春日2丁目
ケイタイ 080331163877

2009.10/11 77

日本共産党

昨年引き続き、大津市が行なっている事業のうち、25事業について、学識経験者などの外部からの視点で、不要または、民営化など6評価に区分する「事業仕分け」が行なわれました。そのうち、「遠距離通学者補助事業」「私道整備補助事業」など14事業が「規模など見直し」と評価されました。

「義務教育は無償」の理念を貫くべき

「遠距離通学者補助事業」を仕分けする理由として

保護者の経済状況を判断基準にするとして
従来の大津市と同じ小学生は3km、中学生は5km以上の距離条件を設けることを検討する時期では・・・としています。

岸本市議の調査によると、志賀中学生の約半数(糸戸 和邇学区)330人と小松小学校では約30人の児童生徒の通学補助が削減されることになるのです。

例えば、和邇春日の志賀中の生徒は、1年間でほぼ2万円の負担。現在5割の補助で自己負担は1万円。距離制限にかかると全額負担となるのです。

旧志賀町時代は通学費全額補助！
旧志賀町では「学校を統廃合」するための条件といつてもありましたが、何よりも「義務教育は無償」という理念から、距離制限は設けず、全額補助されてきました。
しかし、大津市との合併で8割補助から、現在では5割補助と削減されたのです。

旧志賀町地域に多い私道の舗装について5割の補助がありました。これも「見直し」と評価されています。

住民不在の事業仕分けは中止を

そもそも、地方自治体における独自の事業は、それぞれの地域の特性や実情に依りて、地域住民や議会、行政が長い時間をかけて議論を行い、政策を練り上げて事業化してきたものです。

それを住民不在のまま、20分、30分の質疑応答だけで外部の者が事業を仕分けすることは、これまで住民と行政が培ってきた信頼関係までも崩すのです。

日本共産党市議団は、これまで事業仕分けの中止を求めています。これからも中止をさせ、市民のみなさんのいのちと暮らしを守る自治体行政の充実・発展のためがんばります。

和邇春日のみなさんへ 岸本のり子

日頃は地域のみなさんにはお世話になっております。

さきの総選挙の際、春日団地の入り口に日本共産党の看板を掲げたことが、自治会会報でいろいろ取り沙汰されることになりました。

看板の設置も、取り外しも私・日本共産党と、地主さんの関係で行なわれたものです。

みなさまには大変ご心配をおかけいたしました。私は暮らしか福祉をまもり、ごどもたちの未来のためこれからもがんばってまいります。

通学費補助さらに削減？！

事業仕分け

実施されれば木戸・和邇学区ほぼ全域の志賀中学生、小松小学校の児童の一部に影響

事業仕分けとは

行政改革の手法の一つ。市民や学識経験者などが参加し、地方自治体が行っている行政サービス等について、外部からの視点により事業そのものの必要性や仕事のやり方などの是非を議論・評価し、行政サービスを整理・区分していくものです。

最終的には「事業仕分け」を参考に行政が判断を行うこととなります。

静かな「仰木の里」に戻してほしい・・・

湖西道路が4年前に無料化されて以来、道路沿いの住民のみなさんは、騒音 振動さらに排気ガスなどの影響で、静かだった生活が一変しました。

湖西道路無料化で大型車両の 通行量が6倍に

国土交通省滋賀国道事務所の調査によれば、普通車は3倍、大型車は6倍に激増。

沿線の住民のみなさんは、静かな環境を取り戻そうと、2年前、「湖西道路の騒音対策を求める仰木の里住民の会」を結成。

この間、国道事務所など関係機関に、ふしき県議や岸本市議とともに、騒音 振動対策や防音壁の設置などを求めてきました。

国道事務所は、騒音の調査や、騒音吸収舗装をし、湖西道路に静かに走ろうと「横断幕や看板を設置

しかし、住民のみなさんが切望している「防音壁」は騒音対策基準値より低いとしてなかなか設置されません。



看板は建ったけれど……

仰木の里”に魅せられて 移り住んだのに……

10月3日、日本共産党山下芳生参院議員は、ふしき県議や岸本市議とともに、住民のみなさんと現地を視察。

沿線の方は「もともと身体が弱く、“里”に魅せられて移り住み、退職後はのんびり過「そと」で思っていた。退職したとたん湖西道路が無料化され騒音や振動に悩まされた。」

「大型トレーラーが増え、暴走族や、事故の救急車の音も増えた」……

口々に訴えられました。

あと、山下議員は、現地でふしき県議や岸本市議、住民の会の人達と、国道事務所職員と面談。



「住民の会」のみなさんと一緒に国道事務所職員と面談する山下参院議員、ふしき県議、岸本市議。

朝4時からバーンという 突き上げる振動や音で眠れない

国道事務所は1日3、4000台が通行し、その半分は午後7時から午前7時だといいます。参加者から

湖西道路の坂本以南の区域では、騒音 振動を予測して最初から防音壁が設けられていた。無料化のとき、環境影響の評価がされなかった」

「騒音は測定値を平均して評価されるが、平均値で暮らしているわけではない。ピーク時の騒音・振動が問題」……など訴えられました。

新政権の高速道路無料化で 全国でおきかねない問題

山下参院議員は国道事務所に

「住環境悪化は4年前の無料化によることは明らか。基準値の取りかたなどは、国会レベルの論議が必要で最善を尽くす。地方レベルでできる対策として、有料から無料になった激変措置を講じていただきたい。」

新政権の高速道路無料化で全国に起こりかねない問題として、今後問題提起していきたいと述べました。

